

現代中国における学校管理職研修の制度化に関する研究

殷, 爽

<https://hdl.handle.net/2324/7157283>

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (教育学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名	殷 爽			
論 文 名	現代中国における学校管理職研修の制度化に関する研究			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	元兼正浩
	副 査	九州大学	教授	竹熊尚夫
	副 査	九州大学	教授	田上 哲
	副 査	九州大学	教授	趙 世晨

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、中国における学校管理職研修制度の形成過程と現在に至るまでの制度変化に着目し、社会学的制度論の枠組みでその変化要因を解明しようとする意欲的な論考である。Scott (1995) のマクロな枠組みとして知られる規制的 (regulative)、規範的 (normative)、文化－認知的 (cultural-cognitive) 要素に、新たな個体 (individual) の要素を加え、中国の政治的・文化的・社会的背景の下で制度が構成される説明理論としてこれを活用し、クロノジカルに整理している。

制度化初期の 1980 年代は改革開放期にあたり、経済発展、政治改革の道具として「管理職」たる校長の研修は組織化されたが、その後は学校管理職の位置づけも変化し、資質能力向上を目的とした能動的な研修制度へと変質してきた。そうした経緯の中に、管理職としての身分・地位や役割の変化、専門職としての校長をめぐる論争や理想の校長像の変化とその制度環境要因を析出している。

こうした管理職への期待の変化に連なる校長責任制や中国版「校長の専門職基準」をめぐる先行研究は日本でも紹介されてきたが、断片的なこうした諸政策を現代中国の管理職研修制度という半世紀にわたる変遷の中に埋め込み、また各地で試みられている実験的な研修をその制度文脈に位置づけることに成功した本研究は粗削りながらも新たな視点を提供し、学術的にも一定の意義がある。

よって、本論文は博士 (教育学) の学位に値するものと認める。